



絆プロジェクトⅡ

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

環境教育

ICT教育

体力向上

外国語活動

キャリア

平成 29 年 6 月 22 日発行
No.2 文責 小林

～組織力の強化のために～

ここ数年、「チーム学校」という言葉が各学校で聞かれるようになり、組織的な取組が重要視されています。先日、参加させていただいた「組織力強化会議」の中でも、学校運営は、管理職だけが行ったり、個々の教員が個別の教育活動に取り組んだりするのではなく、全職員が共通理解のもと一体的な取組を推進していくことが、子どもたちの学力を高め、活力ある学校を創造できると強調されていました。

では、豊成小学校ではどうでしょうか？会議の中で感じたことを私なりにお伝えしたいと思います。

1. 「統一と徹底」

豊成小学校では、「学習規律」や「3つの約束」をはじめ、全校で統一して行っている取組がたくさんあります。改革最初は、あまりにも細かい内容に、「担任のやり方が・・・」「そんなことよりもっと大切なことが・・・」などという声も聞こえてきました。確かに学級単位で考えると大きな問題はないかのように感じられます。しかし、私達は全員で全校児童を見守っているはずで、自分の学級の子どもたちも他の先生方に見守られ、時には指導していただきながら成長していきます。その時に、統一感のない指導が行われると、子どもたちは、指導する先生方によって態度を変え、学級が替わる度に新しいルールに適應していかなければならず、集団生活における社会性を身に付けるどころか安心して生活することさえできない環境におかれてしまうのです。もちろん、私達も自信をもって他クラスの児童を指導することができなくなり、必要な指導のタイミングを逸してしまう可能性が大きくなってしまいます。

このように、集団で安心して生活したり、より充実した学びの環境を整えたりするには、全校で統一して取り組んでいかなければならないことがあるのです。そのためには、全職員が、各学校の教育目標や児童の実態をしっかりと把握し、そこから見えてくる課題や目標を共有しながら、今必要な取組を共通理解のもと推進していく必要があるのです。

そして、もう一つ大切なキーワードが「徹底」です。いくら統一した取組を行っていても徹底されなければ当然成果を実感することはできません。成果が実感できないと、意欲も必要感も失われ、疲労感だけが残ってしまいます。「統一」と「徹底」はセットでないと意味がなく、両立させるには熱い思いとやり抜く強い意志が必要です。校長先生のお話にもありましたが、今まで積み上げてきたものは少しずつ崩れていきますが、大切なのは、崩れたものを積み直すこと。豊成小学校も積み直しの時期に入ったのかも知れません。今一度、統一した取組を徹底していくように、全職員で意思統一をしていきましょう！

2. 「カリキュラム・マネジメント」

学校教育の充実を図るために必要な「カリキュラム・マネジメント」(*1)には、3つの要素があります。1つ目は、各教科の教育内容を相互の関係でとらえ、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していくこと。2つ目は、教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査やデータに基づき、教育課程を編成し、実施・評価して改善を図る一連のPDCAサイクル(*2)を確立すること。3つ目は、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせることです。

こうした「カリキュラム・マネジメント」も、全職員がかかわり、学校教育目標や目指す資質や能力を明確にししながら、各教科等がどのような役割を果たすことができるのかという視点をもって進めていく必要があります。

豊成小学校の教育課程は、各教科と道徳、特別活動、各行事と横断的な視点で組み立てられており、それぞれが絡み合い、相乗効果を生み出せるように工夫されています。また、学校評価や各種アンケートなどを定期的に行い、客観的なデータとして分析して改善に生かすと共に、地域の人材や環境を効果的に活用し、より充実した教育活動ができるように連携強化を図るなど、カリキュラム・マネジメントに必要な3つの要素をしっかりと網羅しています。さらに、カリキュラム・マネジメントは、管理職や特定の教員が一人で行うものではありません。私達一人一人が、この活動を通してカリキュラムにおける各自の役割を認識し、「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「どう学ぶのか」「子どもの発達をどのように支援するか」など、目的や見通しをもって取り組むことはもちろん、「何が身に付いたか」「実施するためには何が必要か」など、その後の支援や評価、教育環境にまで視野を広げながら、日常の実践と評価、改善を加えていくことで、より充実したカリキュラム・マネジメントが確立されていくのです。

*1 「カリキュラム・マネジメント」 …… 教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程を編成、実施、評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくこと、また、そのための条件づくりや整備のこと。

*2 「PDCAサイクル」 …… Plan（計画）Do（実行）Check（評価）Act（改善）の4つを繰り返すことで、業務を継続的に改善するサイクルのこと。

3. 「エリアの連携」

組織力強化は、学校だけではなく、保護者や地域の協力がなければ成り立たないことは明らかですが、どのようにして協力体制を確立していくのか？それは、学校の「発信力」にかかっていると思います。

まずは、学校の明確な経営方針や目標を発信することで、参画意識を高め、学校の取組に興味関心をもっていただくこと。次に、具体的なビジョンや指導内容を発信することで、学校や担任の指導の意図や思いを理解し、同じ視点で様々な協力をしていただけるようにすること。そして、客観的な分析結果や進捗状況を発信することで、成果や課題を共有し、子どもたちの成長を共に喜びことのできる組織の一員としての自覚をもっていただけるようにすること。さらには、学校評価等で保護者や地域の考えを伺ったり、各種行事や懇談会などの積極的な参加を促したりすることで、より密な情報交換ができるような環境づくりに努めることなど、開かれた学校を意識することで組織的な学校運営が可能となるのではないかと思います。

また、エリア校との連携も組織力強化には重要です。特に異校種へ進学する際に指導の違いに戸惑い、適応するのに時間が掛かったり、時には適応しきれなくて登校を渋るようになったり、実際に困っているのは子どもたちです。各学校の特色を生かした教育を維持しながらも、お互いに情報交流に努め、子どもたちの学校生活の基盤となる学習や集団生活においては、進学を見通した計画的な指導が必要となってきます。そこで、昨年度よりエリア会議の中で稲田小学校と南町中学校とで「学習規律の交流」を行ってきました。学習規律は、各校で整備が進んでおり、ある程度の統一感があるものの、特に小学校と中学校では指導の表現に違いが見受けられました。そこで、以下の5つの重点を設定し、小学校では「中学校までには、これらができるようになっていよう。」と、見通しをもたせることにしましたので、南町中エリアの学習規律の基盤として全校で共通理解したいと思います。ご協力をお願い致します。

<小学校用>

- 1, チャイムの前に席に座ろう
- 2, 元気に授業の挨拶をしよう
- 3, はっきりと話をしよう
- 4, 背中を伸ばして話を聞こう

<中学校用>

- 1, チャイムの前に着席
- 2, 元気に授業の挨拶
- 3, はっきり発言
- 4, 正しい姿勢
- 5, 授業に集中

4. 「最後に・・・」

このように、組織力を高めるための方策は様々ですが、一番大切なことは組織としてまとまること。学級をまとめる時も、一人が違う方向を向いていけば絶対にまとまらない。それは、職員室も同じことです。私達が学級で指導していることを私達ができないわけがない。「やると決めたならばやる！」「やることに疑問があるならば、しっかりと議論する！」これが大切ですよね・・・。